

2011年度

科目名	日本文学を読むB			
担当教員	鈴木 利一			
配当	文 1・教育1・人間1		コード	25009
開期	後期	講時	火曜日5限	単位数 2
授業テーマ	古代の神話・説話・物語を読む。			
目的と概要	この講義で扱う日本文学とは、古代日本の神話や説話のことです。これらの作品には、当時の人々の暮らしの様子や世界観が活き活きと描写されています。こうした古代の文学作品を読み進めていく中で、古代日本社会とその文化への新たなイメージを獲得しましょう。そして、古典文学から得られる感動の世界に親しんでみましょう。			
成績評価法	期末レポート(50%)に加えて随時小テスト(30%)を行いますので、その提出物と日常の学習姿勢等(20%)によって総合的に評価します。			
テキスト	講義中にプリントを配布する。			
参考書				
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	前期開講科目の「日本文学を読むA」と併せての通年受講を推奨します。 受講準備にあたっては、現代語訳付きの原文テキストや注釈書類を一読しておくとう理解が深まります。受講後は、さらに詳細な語注や考察部分を含めて読破することをおすすめします。			
講義計画				
古代説話・物語の世界				
後期は、日本最古の仏教説話集である日本霊異記を中心に説話を読み進め、古代文学の展開の様相を探ります。また、時間が許せば、平安初期の歌物語の世界も紹介していく予定です。取り上げる説話・伝承は、 1. 雷岡と小子部栖軽(第1回) 2. 狐妻(第2回) 3. 道場法師説話群(第3、4回) 4. 放生会と動物報恩譚(第5、6回) 5. 鷲の子育て(第7回) 6. 因果応報と化牛説話(第8回) 7. 冥界往来譚(第9、10回) 8. 法華経靈驗譚(第11回) 9. 観音靈驗譚(第12回) 10. 歌い骸骨と枯骨報恩譚(第13回) 11. 聖武朝と日本霊異記説話(第14回) 12. 聖徳太子と聖人伝承(第15回) 講義の性格上、作品を理解するために、時代背景や神社、仏閣、史蹟等の話題が多くなります。また、同じ理由で旧暦に由来する年中行事や祭礼等に関する知識も必要になります。各講義のはじめに、そうした古典文学に関連する周辺事項の解説や参考書籍等の紹介も行い、より深い作品理解への到達を目指します。				